

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム



を活用した学習の事例（指導案等）



	概 要
学年・教科・単元等	小学校6年生・社会・世界に歩み出した日本
活用方法	四つの学習過程を単元計画に位置付け、「単元を通して考え理解させること」を意識した単元構成をした。児童に「学習意欲の継続と学ぶ必要性」を感じさせ「主体的な学び」につながる単元を貫く学習問題を児童から引き出すようにした。
成果等	単元全体を通して習得した知識を活用し多面的に考えるような活動を単元の中に意図的に仕組み、問題解決的な学習が展開されるように単元を構成することで、「単元を貫く学習問題」を設定し、その解決に向けて学習内容がつながるように意識させることができた。

小学校 第6学年〇組 社会科学習指導案

1 単元名 世界に歩み出した日本

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領・社会科第6学年の内容(2)のアの(コ)「大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、我が国の国力が充実し、国際的地位が向上したことを理解すること」に基づいて構成されたものである。

明治維新をきっかけに欧米の文化を取り入れ、近代化を進めてきた日本ではあるが、すぐに近代化を成し遂げられたわけではなかった。その大きな原因となったのが、江戸時代末期に諸外国と結んだ不平等条約である。その不平等条約を改正するためには、欧米諸国と並ぶ国力を付ける必要があり、そのために日本は様々な政策を講じてきた。結果として、日本は国力を充実させ、国際的地位を向上させることができた。その背景には不平等条約の改正、日清・日露戦争の勝利、海外への進出、科学の発展、民主主義の高まりなど様々な要因があり、それらの出来事が日本の国力の充実や国際的地位の向上に与えた影響や役割を知ることが、日本の近代化がどのように進められたかを理解する上で大変重要なことである。

また、本単元で扱う時代は、今から約150年から100年くらい前の出来事であり、それ程遠い昔ではない。また、現代の民主主義社会の基礎が作られた時代であり、今の私たちの生活に非常に大きな影響を与えている時代でもある。この時代の出来事が現在の私たちの社会に与えた影響を考えることは、当時の出来事と今の日本とのつながりをより明確にする上でも大変意義深いと考える。

児童はこれまで、さまざまな時代と歴史学習のなかで出会い、歴史人物を中心にしながら、歴史の学習を行ってきた。様々な時代の背景を、絵や図、グラフなどの資料からつかみ、人物の気

持ちに寄り添い、意見を出し合いながら、その人物が成し得た実績の価値をまとめてきた。今後、より詳細な時代背景を理解しながら、歴史への興味関心を広げるためにも、資料活用の能力を高めながら、歴史学習に意欲を持って取り組ませたい。

(2) 児童の実態 (省略)

(3) 指導観

①「主体的な学び」につながる単元を通じた『学習問題』を児童から引き出す。【見いだす】
本単元は、日本が欧米諸国と同等の近代国家になろうと、産業を発展させたり、近隣諸国を植民地化したりした内容を学習する。事実の羅列にならないように、日本が努力する目的を「ノルマントン号事件」の挿絵から、当時の国民のくやしさを味わわせ、単元を通じる「条約改正のためにどのような努力をしたのか」という学習問題をできるだけ児童の言葉で導き出し、単元を通して、主体的に学習できるようにしたい。

② 深い「対話的な学び」になるよう、話し合いの場を設定する。【広げ深める】
読み取った情報が、本時の目的の関係していることなのか、正しく読み取れているのか不安な児童のために、共有する前の時間に読み取ったことをペアやグループで話し合わせる。また、歴史の登場人物に寄り添うためには、登場人物がおかれた状況を理解し、その時の登場人物の心情を、児童の言葉で表現させることが大切であると考え。それを促すためにも、ペアやグループでの対話と、クラス全体での対話を効果的に使い分け、より児童が自分の言葉で表現しやすい場を意図的に設定したい。

(4) 校内研究との関わりから

① I C T機器を活用して資料の焦点化を図る。【広げ深める】
様々な資料から、正確に読み取ることができなかつたり、どの資料から読み取るとか選択できなかつたりする児童のために、I C T機器を効果的に活用したい。電子黒板とデジタル教科書を使って、どの資料からどのようなことが読み取れるのかを資料を拡大・縮小したり印を付けたりしながら、何をどう読み取ればよいのか、資料活用能力を高めたい。

②「自分の言葉でまとめを考える」ことで学習の定着を図る【まとめあげる】
「何を学んだのか」を自分自身の言葉で振り返りながら、まとめあげさせる。また、理解が不十分な児童のためにもペアやグループでの対話も位置づけ、友達の意見を参考にする時間を設ける。要点を吟味し、より質の高いまとめへ表現する力を高めたい。

3 単元の目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べてまとめ、我が国の歴史の展開を考え、表現することを通して、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、地図や年表などの資料で調べ、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを理解している。	①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて考え表現している。	①日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上し	②日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを関連付けたり総合したりして、	

たことを理解している。	明治政府の意図や世の中の様子の変化を考え、適切に表現している。	
-------------	---------------------------------	--

5 全体計画（6時間扱い） ●指導者が指導の改善に生かすための評価 ○指導の総括に生かすための評価

時	○目標 ・学習内容	評価規準（評価の方法）		
		知・技	思・判・表	態度
1 本 時	○条約改正への歩みに着目し、条約改正を達成するまでの出来事について学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。 ・ノルマントン号事件に対して国民がどのように考えていたのかを調べ、条約改正に対する人々の思いを考える。 ・本単元の学習問題をつくり、学習問題に対する予想を出し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">日本は、条約改正を目指して、どのような努力をしたのだろうか。また、世界の中で日本の立場や国民生活には、どのような変化がおこったのだろうか。</div>		【●思①】 (発表・ノート)	【●態①】 (発表・ノート)
2	○工場の様子や陸奥宗光について調べ、明治政府の政策による国造りと条約改正交渉の進展を結びつけて考える。	【○知①】 (発表・ノート)		
3	○絵図やグラフなどの資料を読み取り、二つの戦争によって日本と世界の国々との関係が変化していったことを理解する。	【○知②】 (発表・ノート)		
4	○日本が朝鮮を植民地にしたことや、条約改正を果たして欧米諸国と対等になったこと、医学などの分野の活躍を調べることを通して、日本の世界への進出と国際的地位の工場について理解する。	【○知②】 (発表・ノート)		
5	○産業の発展によって起こった社会問題やさまざまな運動について調べることを通して、人々の民主主義への意義が高まったことを理解する。	【○知②】 (発表・ノート)		
6	○これまで学習してきたことを関連付けて、条約改正のために果たしてきた人物の役割を考え、人物カードや表にまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">日本の産業や科学・文化の発展と国力の充実にもなつて日清・日露戦争に勝利し、国際的地位が工場したことで条約は改正された。その一方で産業の発展は人々の生活や社会に大きな変化をもたらした。</div>		【○思①②】 (人物カード、表)	【○態①】 (発表・ノート)

6 本時の展開（1／6）

本時は、ノルマントン号事件をきっかけに児童が単元を通して、何を学ぶのかを意識できるようにする学習である。不平等条約によっておきたノルマントン号事件を受けての悔しさや無念さを児童の言葉で表現させ、当時の国民の心情を考える。また、不平等条約改正のために日本はどんなことをしたのかを年表から調べたり、なぜそれが条約改正につながるのかを予想したりしながら、単元の見通しをもち、それを学習問題として表現させていく。

(1) 目標

- 学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもつことができる。
- 江戸時代の終わりから明治時代の終わりにかけての日本を取り巻く世界の様子に着目して、学習問題を見いだすことができる。

(2) 展開

時配	過程	学習活動と内容	○指導上の留意点 ◎個別の支援 ☆評価 (方法)	資料
10	見 い だ す	<p>1. ノルマントン号事件の風刺画を見て、どんな事件だったのかを読み取らせる。</p> <p>西洋人 →無罪→禁固3カ月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笑っている。 ・パイプを吸っている。 ・浮き輪を投げない。 ・助ける様子がない。 <p>日本人 →全員行方不明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おぼれそう。 ・助けを待っている。 <p>許せない くやしい おかしい</p> <p>日米修好通商条約→不平等条約</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領事裁判権を認めていた。 ・日本の法律で裁くことができない。 ・関税自主権がなかった。 ・安い外国製品が入ってくる。 <p>2. 本時のめあてを立てる。</p> <p>江戸時代の終わりに結んだ不平等条約を改正するために、日本はどのような努力をしたのかを予想し、今後の学習計画を立てよう。</p>	<p>○これから提示する絵が、今後学習する時代を上手に表していることを伝える。</p> <p>○風刺画は社会の様子をおもしろくわかりやすく表した絵であり、新聞などに使われていることを補足する。</p> <p>○風刺画から気づいたことをノートに書かせ、発表させる。日本人は全員行方不明になったこと、西洋人は軽い罰を受けただけだったことを補足し、児童に感想を聞く。</p> <p>○軽い罰を受けたことと、江戸時代に締結した日米修好通商条約が関係していることを伝え、領事裁判権を認めたことを説明する。</p> <p>○関税自主権がないことも補足し、日米修好通商条約が不平等であることを児童の言葉から引き出す。</p> <p>○教科書の「ことば」を読ませ、条約改正を達成するには、欧米諸国と対等な関係を築くことが必要であること、明治時代の終わりに条約が達成したことを確認し、日本はどんな努力をしたのか興味を持たせる。</p>	<p>風刺画 (ノルマントン号)</p> <p>図(領事裁判権と関税自主権)</p>
15	自 分 で 取 り 組 む	<p>3. 年表や資料から、25年間で欧米諸国と対等な関係を築き、条約改正が達成できたのかをグループごとに予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軍を強くする。・欧米化する。 ・経済を強くする。 ・お金がたくさんある国にする ・他の国からお金をとる。 	<p>○鹿鳴館や岩倉使節団を紹介し、条約改正に向けて、日本が動き出したが、苦労の連続だったことを伝える。</p> <p>○年表を提示し、25年で条約改正が達成されたことを読み取らせ、日本はどんな努力をしたのか興味を持たせる。</p> <p>◎グループごとに条約改正に向けての日本の取り組みを予想させ、代表に考えたことを発表させる。なぜそう思ったのかも発表させる。</p>	<p>絵(鹿鳴館)</p> <p>映像資料 (鹿鳴館1'00'・岩倉使節団1'42)</p> <p>年表</p>
10	広 げ 深 め る	<p>4. 年表のできごとから、どんなことを学習していきたいか考え学習計画を立てる。</p>	<p>◎年表のできごとで興味があるものを選択させ、それをすることで日本は何をしたかったのか、個人で考えさせた後、グループで話し合い、代表1名に発表させる。</p>	<p>年表</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・日清戦争・・・ なんのために戦争をしたのか ・八幡製鉄所で生産が始まる なぜ鉄を作ったのか 鉄で金は儲かったのか 	<p>○条約改正されたあとどうなったのかも学習することを伝え、その後の日本の状況にも視点を向けさせ、予想させる。</p> <p>☆学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもつことができる。</p> <p>(ノート・発言) (主体的に学習に取り組む態度)</p>	
10	まとめあげる	<p>5. 本時をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>日本は条約改正をめざして、どのような努力をしたのだろうか。 また、条約達成後、日本の立場や国民の生活はどのような変化が起こったのだろうか。</p> </div>	<p>○この年表の時代全体では、どんなことを学習していくのかを問い、ノートに記述させ、発表させる。</p> <p>☆江戸時代の終わりから明治時代の終わりにかけての日本を取り巻く世界の様子に着目して、学習問題を見出すことができる。</p> <p>(ノート・発言) (思考・判断・表現)</p>	